認知症の人と家族をサポート

認知症初期集中支援の取り組み

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、認知症の早期対応を専門的に行う認知症初期集中支援チームがサポートします。

問い合わせ　高齢者福祉課（市庁舎2階、☎65・4145）

認知症は誰もがなりうる「病気」

認知症とは、さまざまな原因で認知機能が低下し、日常生活や社会生活に支障がでている状態のことです。

認知症は、誰もがなる可能性がある病気です。国の推計では、65歳以上の約4人に1人が認知症またはその予備軍といわれています。

早期発見・早期治療が大切

現在、認知症を完全に治す方法はありません。しかし、早期に発見し、薬物治療や生活習慣の見直し、介護サービスをうまく活用することで、症状の進行を遅らせることができます。そのためには、症状が初期のうちに専門の病院を受診し、早期診断、早期治療を行うことが大切です。

しかし、認知症かもしれないと本人が感じていても認めたくない、あるいは不安な気持ちから、病院へ行くことをためらったり、拒んでしまう場合もあります。家族は本人にどのように病院を受診してもらうか、悩みを抱えているのではないでしょうか。

認知症初期集中支援チームがサポート

市では、認知症の早期対応をするため、認知症に関する知識を持ち、認知症支援の研修を受けた「認知症地域支援推進員」と、認知症の専門医療を行う「認知症サポート医」「認知症認定看護師」で、「認知症初期集中支援チーム」を形成しています。

認知症の人やその家族などに、認知症の疑いがある初期段階から関わることで、自立した生活を継続できるようサポートします。

認知症の症状の段階に応じた支援

地域包括支援センターが本人や家族などから相談を受けると、まず、チーム員が認知症の人や認知症が疑われる人の自宅を訪問し、本人の体の状態や生活状況、家族の話を聴いて病院受診の調整を行います。一人暮らしの人や家族だけでは不安なときは、チーム員が一緒に病院に行く場合もあります。

その他にも、チーム員は定期的に会議を行い、介護サービスの調整や今後の生活について、本人や家族との話し合いをもとに支援計画を立て、症状の段階に応じた支援を集中的に行います。

認知症で困ったら相談を

認知症で困ったら、まずは近くの地域包括支援センターに相談してください（図）。また、知り合いの人が認知症で悩んでいる場合も、連絡してください。地域包括支援センターが窓口となり、認知症初期集中支援チームと連携して支援を行います。

また、大江病院認知症疾患医療センター（西20南2、☎58・2690）でも、認知症に関する相談や支援を行っているので、活用してください。

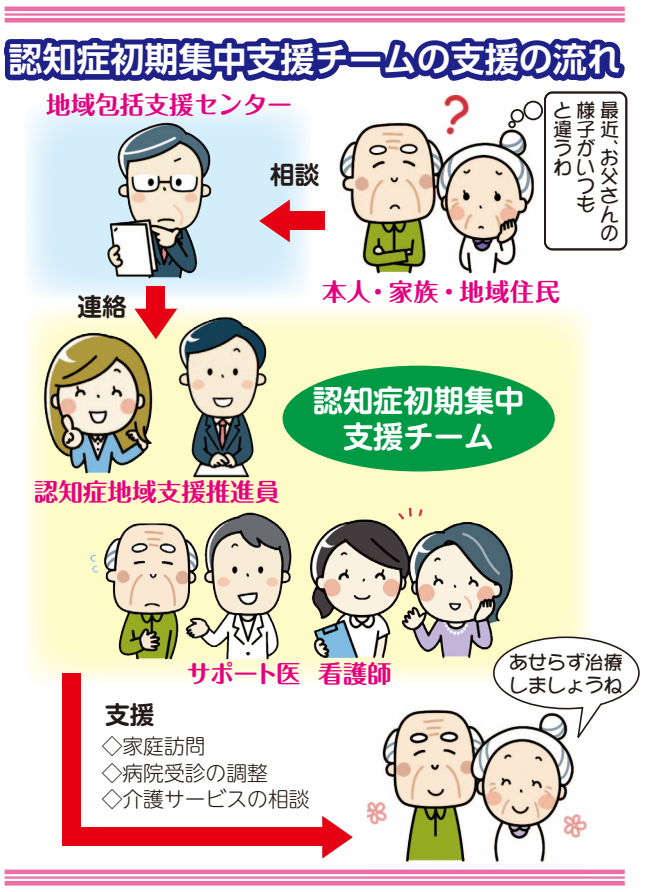
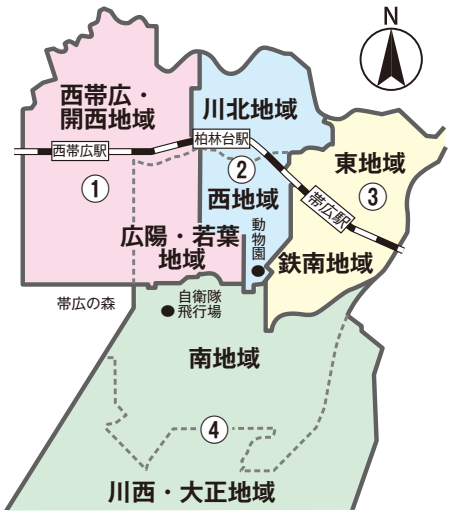


図　地域包括支援センター　市内担当地域マップ



①
西帯広・開西地域担当（サテライト）
地域包括支援センター
愛　仁　園（西）
西24南1　☎61・1616

広陽・若葉地域担当
地域包括支援センター
愛　仁　園
西16南28　☎49・2338

②
西地域担当
地域包括支援センター
帯広市社会福祉協議会
公園東町3　☎21・3292

川北地域担当（サテライト）
地域包括支援センター
帯広市社会福祉協議会（北）
西14北1　☎66・4535

③
東地域担当（サテライト）
地域包括支援センター
帯広至心寮（東）
東13南6　☎66・4613

鉄南地域担当
地域包括支援センター
帯広至心寮
西5南30　☎24・1150

④
川西・大正地域担当
地域包括支援センター
帯広けいせい苑
川西町西1線47
☎53・4771

南地域担当（サテライト）
地域包括支援センター
帯広けいせい苑（南）
西5南37　☎67・8437

私たちがサポートします

「他の病気と違い、認知症の人が病院を受診することはとても難しい」という相談を多く受けます。

認知症初期集中支援チームでは、医療や介護サービスの調整だけでなく、本人がどのような生活を望んでいるか一緒に考えます。困った時は、いつでも相談してください。

写真右から大江徹医師（認知症サポート医）、大森亮子看護師（認知症認定看護師）、（認知症地域支援推進員）米森洋子さん、太田由里さん、柏谷由紀さん、郷晃さん

広告